

# ニセコリゾートエリアにおける地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業最終年目）

## ニセコリゾートエリア地域公共交通総合連携計画の目標

### 利用者のニーズにあった利便性の高い地域交通の実現

- ・立ち寄り可能な施設の増加による消費の活性化
- ・地域全体の顧客満足度の向上による観光客数の増加
- ・交通弱者、交通事故、環境問題、駐車場の不足などの諸問題の解決

## 22年度総合事業計画の概要

### 1)ニセコリゾートエリアでのバスの実証運行

#### 夏バス・秋バス

- 運行期間 : H22.7~ H22.10 (8月は毎日、7月・9月・10月は土・日・祝)
- 運行ルート : 倶知安駅~ヒラフ~ニセコビレッジ~ニセコ駅~昆布温泉(往復)
- 運行本数 : 1日9便(4.5往復)
- 運賃 : 300円均一
- 運行事業者 : ニセコバス(株)

#### くっちゃんナイト号

- 運行期間 : H22.12~ H23.3
- 運行ルート : 倶知安駅~ヒラフ(往復)
- 運行本数 : 1日13便(6.5往復)
- 運賃 : 週間券200円、シーズン券500円 (昨年は無料)
- 運行事業者 : イナホ観光(株)

#### ニセコ湯めぐりバス

- 運行期間 : H22.12~ H23.3
- 運行ルート : ヒラフ~スキーリゾート各所~昆布温泉~湯本温泉(往復)
- 運行本数 : 1日4便(2往復)
- 運賃 : 500円
- 運行事業者 : ニセコバス(株)

## ニセコリゾートエリア地域公共交通活性化協議会開催状況

- 平成22年5月14日 第15回ワーキング  
・平成21年度 事業報告・収支報告  
・平成22年度 事業計画について
- 平成22年5月21日 第7回協議会  
・平成21年度 事業報告・収支報告  
・平成22年度 事業計画について
- 平成22年11月24日 第16回ワーキング  
・平成22年度夏バス・秋バスの実績報告  
・平成22年度冬期のバス運行計画について

### 2)トラベルインフォメーションの運営

冬期間の旅行者のバス利用の促進のため、「くっちゃんナイト号」および「まちの駅ぷらっと」にインフォメーションスタッフを配置

### 3)バス停の整備

複数のバス停が配置され、景観と利便性の低下を招いている状況を、統一のバス停を設置することにより改善

## 22年度事業の実施状況

### 1) プロセス、創意工夫

#### 夏バス・秋バス

- ・ Gondola との共通乗し放題券を導入
- ・ 一部ルートを改善
- ・ バーコード、QRコードによる乗車履歴の管理

夏バス・秋バス



#### くっちゃんナイト号

- ・ 有料化の実施
- ・ 地域施設 (飲食店など) との連携の強化

くっちゃんナイト号



#### ニセコ湯めぐりバス

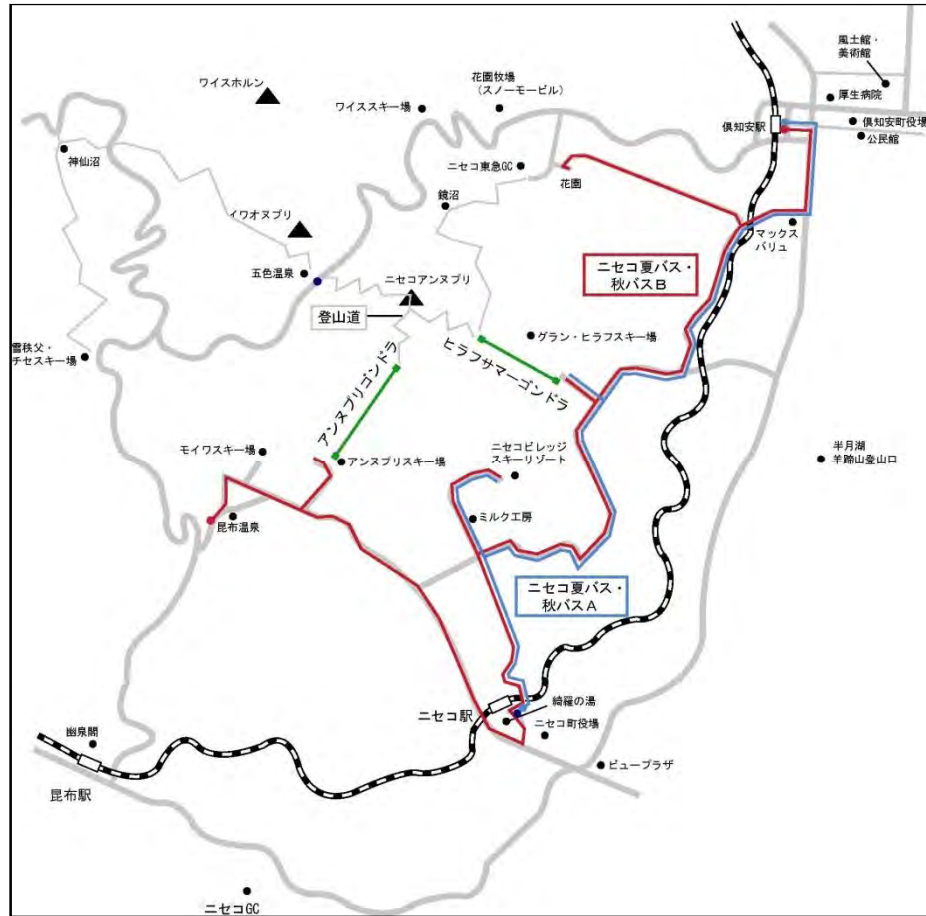
- ・ ルート、ダイヤの変更 (乗り換えのない形に変更)

ニセコ湯めぐりバス

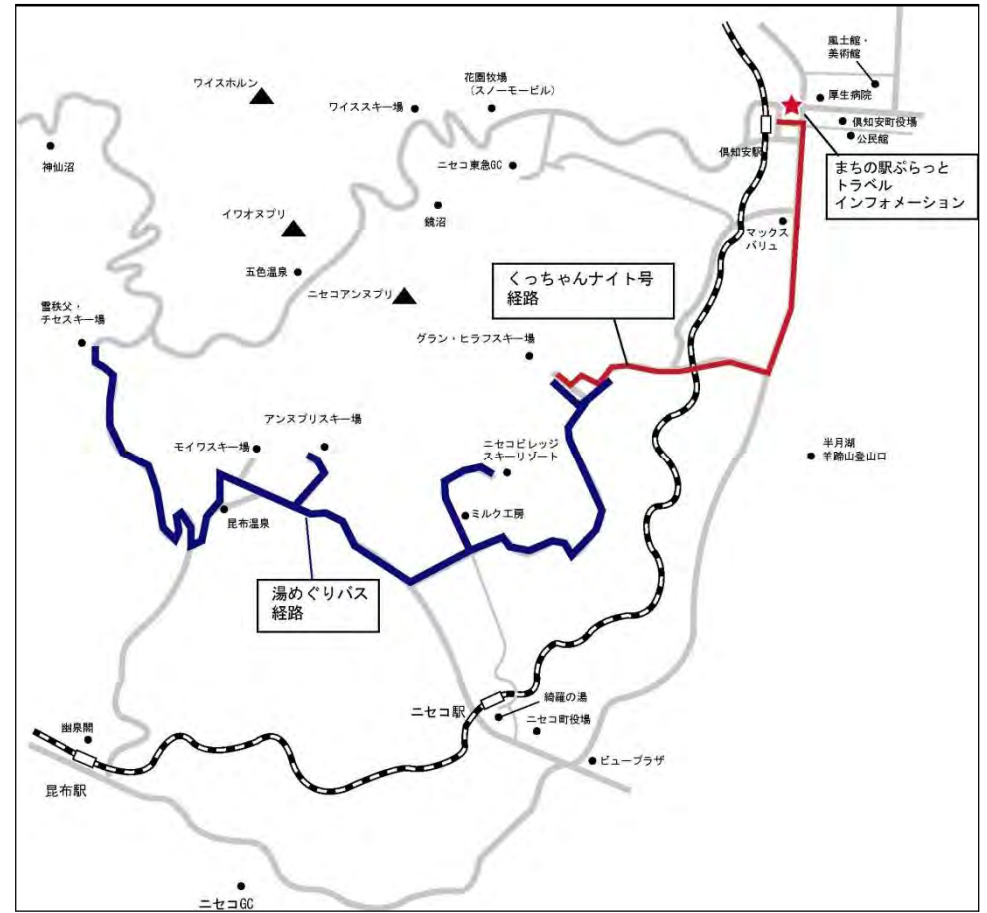


## 2) 運行ルート

夏 期

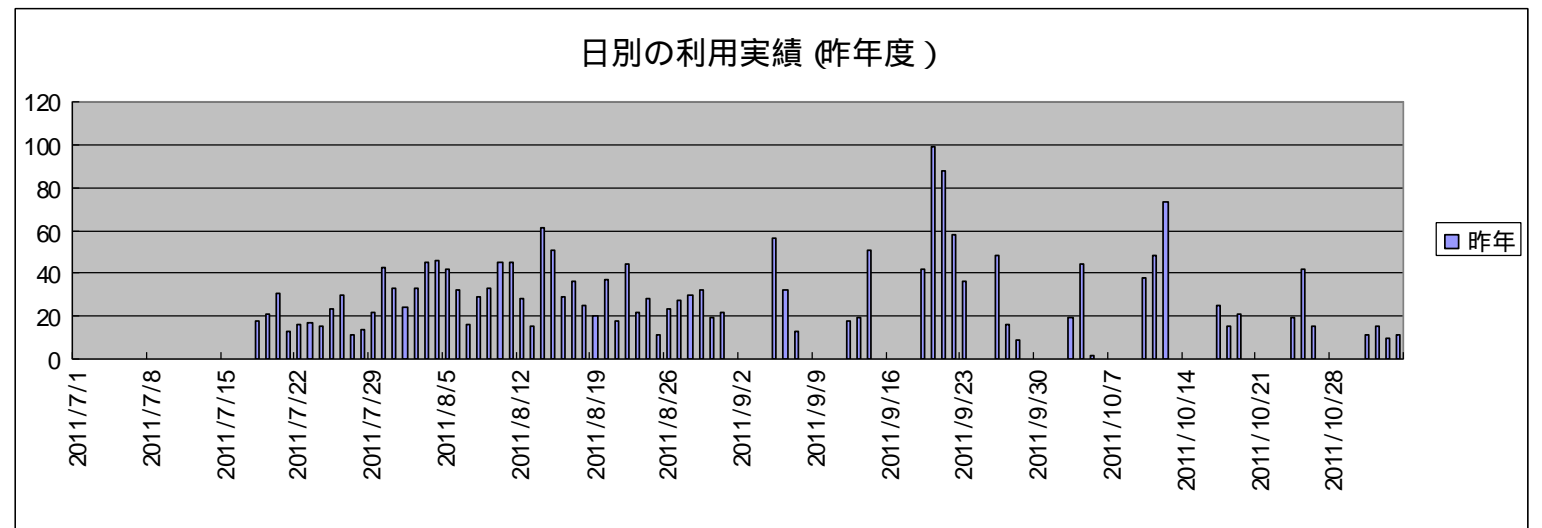
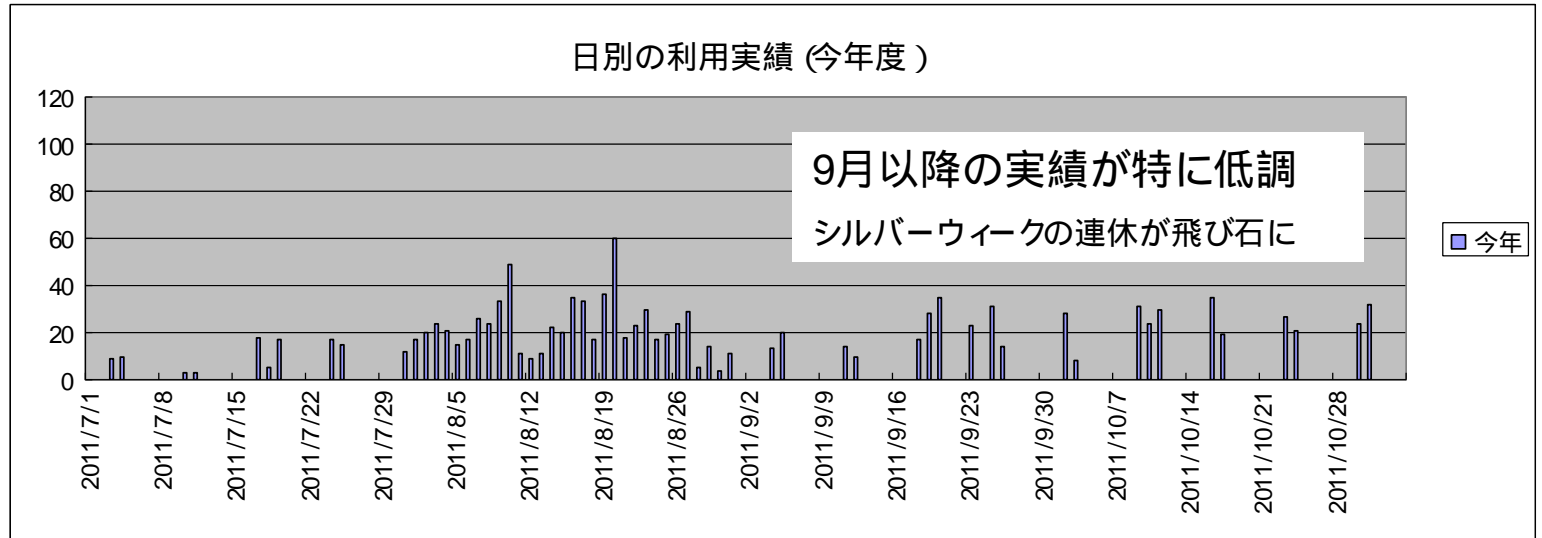


冬 期



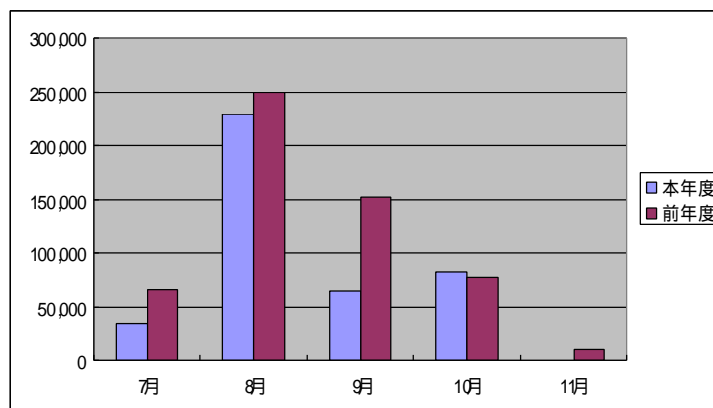
### 3)利用実績 (夏バス 秋バス)

	本年度	前年度
7月	86	307
8月	694	968
9月	205	585
10月	279	373
11月	--	36
合計	1,264	2,269



#### 4)収入実績 (夏バス 秋バス)

	本年度	前年度
7月	34,700円	65,750円
8月	228,870円	249,150円
9月	64,120円	152,300円
10月	81,790円	77,400円
11月	--	9,600円
合計	409,480円	555,402円



#### 6)今後の課題

##### 夏バス 秋バス

ゴンドラとの連携などにより利用者の増加を目指したが、利用者数の改善には至らず、運賃収入による運行の継続が難しい。収入の不足分を補填するスキームを確立する必要がある。

#### 5)事業実施効果

##### 夏バス 秋バス

ゴンドラとの連携 (乗り放題券) により、バス交通+索道による観光ルートが確保

JRとの接続により、自動車に頼らない旅行形態が確立された

##### 冬期のバス (くっちゃんナイト号・ニセゴ湯めぐりバス)

くっちゃんナイト号は利用者に負担を求めることにより、今後の運行の継続が担保される。また、ニセゴ湯めぐりバスは、実証運行を通して理想的な運行ルート、ダイヤが確定し、今後の運行の継続が見込まれる。

##### 自己評価のポイント

- ・リゾートエリアのバス交通の利便性向上という目標を達成するために適切な事業であると判断される。
- ・夏バス 秋バスは、利用者数の改善には至らず、収入不足を補うスキームを確立する必要がある。
- ・冬期のバスに関しては、利用者負担により継続が担保される見込みであり、運行ルート等についても、確立されたものと評価する。

##### 二次評価のポイント

- ・自己評価のとおり。
- ・本格実施にあたっては、収入改善策、財源確保策が必須であると考え。特に、夏バス 秋バスを継続運行する場合にあつては、抜本的な改善策が必要と判断する。